

教育目標

「自分で考え、自分で動き、意欲をもって遊ぶ子どもの育成」

○自己を発揮する子ども ○人とつながることを喜ぶ子ども ○主体的に遊ぶ子ども

年度末の最終評価**自己評価** **教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し**

- ・日々の保育を通して、幼稚園が目指している教育・保育への理解が深まってきた。
- ・来年度以降公立幼稚園はさらに厳しい現状におかれるが、地域に根差す公立幼稚園の役割として、今後も幼小接続に向けた取組を継続していくことが大切である。
- ・昨年度、保育充実に向けて園庭環境を見直したことは、今年度子どもが思う存分園庭を活用して遊び込む姿となり、個や集団の学びや育ちに大いにいきている。
- ・管理職を含めて、さらに年休取得や時間外勤務時間縮減に向けた取組を確実に実践していく。

学校関係者評価 **学校関係者による意見・支援策**

- ・昨年10月から始まった幼児教育の無償化の実施により、公立幼稚園の置かれている現状がより厳しくなっているのがよくわかる。
- ・小学校との接続に向けて、待賢幼稚園では3年前から公開保育を通して話し合いの場がもたれているが、今後も地道に取組を続けてもらいたい。
- ・園児が減少していることは気がかりであるが、未就園の子育て支援においては今後も地域やPTAOBが協力していきたい。
- ・地域行事への参加については、PTAや幼稚園の負担感が大きくならないようにしていきたい。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和元年 9月 18日	学校運営協議会理事
最終評価	令和2年 3月 5日	学校運営協議会理事

（1）幼稚園教育（保育の改善・充実）について**具体的な取組**

- ・幼児が主体的に遊ぶ姿を環境構成等から考え、日々の保育の援助（支援）を探る。
＊安心、安全、主体性を重視した園の環境が生かされる保育環境づくりを通して
- ・計画性をもった保育の取組とねらいを明確にした週案の作成

（取組結果を検証する）各種指標

- ・幼児の遊ぶ姿の変容・週案の反省、評価の記述・事例検討
- ・アンケート項目「子どもは自分の思いを出しながら、友達と遊んだり生活したりしている」

中間評価

自己評価	各種指標結果 <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の遊ぶ姿の変容（週案の反省，評価の記述・事例検討） ・ アンケート結果「97 %」
	分析（成果と課題） <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究主題にある「主体的に遊ぶ子どもの姿を探る」を考えていくことは，保育の改善や子どもの変容につながりつつある。
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・ 教師が願いをもって環境を構成したり，遊びを援助したりすることが，主体的に遊ぶ子どもを見取る保育につながっている。2学期以降も子どもの遊びに願いをもち取り組んでいく。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の遊ぶ姿の変容（週案の反省，評価の記述・事例検討） ・ アンケート項目「子どもは自分の思いを出しながら，友達と遊んだり生活したりしている」
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもたちが思う存分体を動かし，集団の中で子ども一人一人が生き生きと活動できている。 ・ 幼稚園は大勢の子どもがいてこそ，一人一人の子どもの育つところである。学級全体の子どもの成長を見つめながら，自分の子どもの成長を喜べる保護者であってほしい。 ・ 子どもたちが安全で安心して園外保育へ出かけられるように協力していきたい。

最終評価

自己評価	中間評価時に設定した各種指標結果 <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の遊ぶ姿の変容（週案の反省，評価の記述・事例検討） ・ アンケート結果「94 %」
	分析（成果と課題），重点目標の達成状況，次年度の課題 <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究主題にある「主体的に遊ぶ子どもの姿を探る」を通して，子どもが遊びに向かっているときのさまざまな思いや，感じていることを丁寧にありのままに受け止められるようにしてきた。さらに，多様な子どもの見取りをする中で，子どもが主体的に遊ぶ姿を追求していきたい。
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの主体的に遊ぶ姿をより追求していくためにも，預かり保育との連携や支援の必要な子ども，新2号認定の子ども等について考え，保育の改善や子どもの変容につなげていきたい。
	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもが興味や関心をもって，子どもたちが何事にも思う存分没頭して遊び込める園環境となっている。幼児期の子どもたちの動きの量には驚かされる。 ・ 幼稚園はたくさんの子どものうち一人一人の子どもの学びや育ちが大きくなるが，今後さらに園児が減少していくと，その学びや育ちに大きく影響するのではと危惧する。

（2）幼小連携・接続に関して

具体的な取組 <ul style="list-style-type: none"> ・ 年間交流計画の作成 ・ 通園区域内にある保幼小(中)学校への保育公開及び合同研修 ・ 接続カリキュラムの作成と検討

<p>・「親子で絵本！」の取組の定着</p>
<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流の事前・事後の検討 ・公開保育及び合同研修の回数 ・「親子で絵本！」のノート活用度 ・アンケート項目「“親子で絵本！”の取組は楽しめている」

中間評価

<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼中交流と幼小連携会議の実施 ・「親子で絵本！」のノート活用率「100%」 	
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼小中連携による保育参観や交流は、見通しをもって計画的に取り組むことができた。 ・園全体で絵本貸出に取り組んでおり、絵本読書ノートの活用率は100%である。 ・殆どの家庭で親子読書は楽しめているようであるが、取り組み方を交流することも大切である。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1学期幼小交流は実施していないが、2学期初め授業参観後に幼小連絡会をもつことができた。 ・PTAが絵本室の整理や絵本修理などを行い、親子で絵本読書が楽しめる環境づくりができた。
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保幼小(中)学校への保育公開及び幼小連携会議の継続 ・「親子で絵本！」のノート活用度 ・アンケート項目「“親子で絵本！”を楽しんでいる」
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公立幼稚園は小学校、中学校と同様に地域の中にある幼稚園として、さらに子どもの育ちが繋がっていくための交流を進めてほしい。 ・小学校で使用している100冊読書ノートを公立幼稚園でも活用していることは、幼小が繋がっていく上での良い取組である。 ・この時期しか楽しめない親子読書を、よりコミュニケーションツールとしても活用してほしい。

最終評価

<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼小連携会議と幼中交流の実施 ・「親子で絵本！」のノート活用率「100%」 	
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1月下旬、近隣の小学校の先生方と研修を深めるための保育公開を実施した。4小学校からの参加があり、研究協議で「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」と5歳児の幼小接続を視点にした年間計画について話し合えた。 ・家庭で楽しく親子読書のできていない割合が、1割ほどあった。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近隣小学校との交流は中止となったが、小規模校と互惠性のある交流は今年度も行えた。 ・毎週木曜日を「読書ノート」を活用した絵本貸出日にしているが、保護者からの一言がなかなか書いてもらえない状況となってきた。工夫しながら改善していきたい。

学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市立幼稚園が小学校、中学校つながりあえるのは、地域の方が点から線へとつながるように尽力されてのものである。 ・親子読書からも親の忙しさわかるが、このような時代だからこそ、幼稚園の教育をしっかりと理解し、家庭での教育を大事にしてほしい。
---------	--

（３）預かり保育に関して

<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程に係る教育時間外（預かり保育）の指導計画の見直し <ul style="list-style-type: none"> ＊教育課程内の活動との関連を図りながらの見直し ・地域の様々な資源の活用
<p>（取組結果を検証する）各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育参加人数 ・預かり保育の活動や指導計画の見直し状況 ・アンケート項目「喜んで預かり保育に参加している」

中間評価

	<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育参加人数の増加 ・預かり保育の活動や指導計画を随時見直す ・アンケート項目「97 %」
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2学期から参加人数が増えてきているため、ボランティアを積極的に活用している。 ・6時までの預かり人数が増える傾向にあり、降園時担任と保護者の話す機会が減ってきている。 ・教育時間内の保育内容を見据えながら、預かり保育の活動内容についても随時見直してきた。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就労等により園行事やPTA行事への参加が難しくなってきた保護者が増えている。活動内容を見直すとともに、OBの協力支援も得てPTA活動を継続している。 <p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6時までの預かり保育参加人数 ・預かり保育の活動内容や指導計画の見直し状況 ・アンケート項目「喜んで預かり保育に参加している」
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月からの幼児教育無償化の実施により、就労等の保護者が増加し預かり保育利用者が増えるように思う。園に依存しすぎて、親の子育てへの責任感が低下していかないようにしてほしい。 ・子どもの姿を通して、園だけでなく地域も保護者と気軽に話ができる関係を築き、親支援を行ってきたい。

最終評価

<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育参加人数の増加 ・預かり保育の活動や指導計画を随時見直す ・アンケート項目「94%」 	
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育時間中は、通常保育時間に子どもたちの力が最大限発揮できるようにと考え、担任と預かり保育担当者がより連携し、随時活動内容の見直しを行ってきた。 ・積極的にボランティアを活用し、支援を要する子どもへの個別支援に当たることができた。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就労等による新2号認定優先利用者が増えつつある中で、降園時、園や担任から保護者に伝えるべきことを伝わりきらない状況が出てきているため、保護者との連絡連携には工夫を要する。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月から預かり保育を必要とする要件に見合った家庭は無償化の対象となったが、保護者が親の役割を果たさず、何もかもが園に任せにしないようにすることが大事である。 ・今後、就労等による預かり保育利用者のことを考えると、園行事だけでなく主なPTA行事の活動のあり方についても見直しが必要である。

（４）子育ての支援に関して

<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未就園児親子を対象とした教育相談の実施 ・幼稚園生活や保育内容説明会での先輩ママと触れ合い ・未就園児親子を対象とした、在園児や 地域の方と触れ合える取組（七夕のつどい、運動会、クリスマスの集い、水遊びへの参加など） ・身長や体重を測り、親子で成長を喜び合う。 	
<p>（取組結果を検証する）各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援の取組の回数や参加人数、教育相談件数 ・未就園児保護者に対するアンケート実施 	

中間評価

<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援の取組 回数；27回 参加人数；延べ311人、教育相談件数；30件（4～9月） ・未就園児保護者に対するアンケートの実施 	
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援の取組では、0～3歳児親子のひよっ子クラブ（毎週月・金曜日）や未就園3歳児親子のいちご組（月～木曜日）を通して、子育てについての教育相談を毎日行うことができた。 ・ひよっ子クラブでは、年々3歳児親子の参加が減少してきている傾向が見られる。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未就園児親子を対象とした子育て支援の取組については、ホームページや地域へのチラシやポス

	<p>ターの配布，区役所内のチラシ配架などより広報している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8 月には「上京えんじえる “ぎゅっ” とひろば」に 3 年前から参加し，公立幼稚園の取組を積極的に広くアピールしている。
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子育て支援の取組の回数や参加人数，教育相談件数 ・ 未就園児保護者に対するアンケートの実施
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 乳児期の早い時期から幼稚園探しをして，早い時期からの保育を希望する保護者が増えてきている。2 年保育の待賢幼稚園に 3 歳児親子が遊びにこないのも，それが一因になっているように思う。 ・ 地域の中にいる子育てママが孤立しないように，園と連携しながら取り組んでいきたい。 ・ 子育て支援の取組には，今後も子育て先輩ママとして，地域やOBが協力していきたい。
最終評価	
	<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子育て支援の取組 回数；60 回 参加人数；延べ 719 人（未就園児いちご組実施を除く） 教育相談件数；約 60 件（4～3 月） ・ 未就園児保護者に対するアンケートの実施
自己評価	<p>分析（成果と課題），重点目標の達成状況，次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティアの協力により，0～3 歳児親子のひよっこクラブ（毎週月・金曜日）や未就園 3 歳児親子のいちご組（毎日）を通して，子育て支援に関わる教育相談を続けることができた。 ・ ひよっこクラブへの参加者減少とともに，来年度のいちご組への参加者が激減している点は，今後の運営も含め大きな課題である。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 未就園児親子を対象とした子育て支援の取組への参加が減少傾向にある点については，PTA を中心としながら，さらに公立幼稚園をどのようにアピールすればよいか話し合っていきたい。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ひよっこクラブや未就園 3 歳児いちご組親子の登録の減少は，10 月から始まった幼児教育の無償化と相まって，待賢幼稚園が 2 年保育であることが大きく影響しているように思う。 ・ 地域の中にいる子育てママが孤立しないように，園と連携しながら取り組んでいきたい。 ・ 子育て支援の取組には，今後も子育て先輩ママとして，地域やOBが協力していきたい。

（５）地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）に関して

<p>具体的な取組</p> <p>○学校運営協議会 3 企画委員会の取組の検証</p> <p>A. 親子の学びプロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ カレーパーティ，もちつき，絵本室の整備・貸出，子育て支援センターとしての活動等を行う。 <p>B. からだ元気プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 親子遠足・夏季プールの開設，運動会の競技，冬のマラソン，預かり保育によるキッズサッカー・キッズヨガ体験等を行う。
--

C. 連携プロジェクト

- ・ 幼小交流，中学校チャレンジ体験受け入れ，待賢カーニバル，お茶体験，敬老交流会等を行う。

○地域資源を活かした指導計画の作成

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・ 交流の回数や地域の方々の声
- ・ アンケート項目 「子どもは幼稚園での取組の中で地域や地域の人に親しみをもっている」

中間評価

各種指標結果

- ・ 交流の回数や地域の方々の声
- ・ アンケート項目 「82 %」

自己評価

分析 (成果と課題)

- ・ 地域主催の「待賢カーニバル」には，園児とともにPTAも積極的に参加し，地域の方たちと協力して待賢カーニバルを盛り上げることができた。
- ・ 前日準備ではPTAが頼りにされつつため，PTAの負担感が増えすぎないようにしていく。
- ・ 夏休みに入り，学校運営協議会とおやじの会主催によるプール開放を2日間行うことができた。

分析を踏まえた取組の改善

- ・ 地域行事参加や協力体制の在り方については，地域とのつながりを大切にしながら，今後PTAにおいて毎年検討し改善を図っていく。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ・ 交流の回数や地域の方々の声
- ・ アンケート項目 「子どもは幼稚園での取組の中で地域や地域の人に親しみをもっている」

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・ 2年保育の本園は，10月からの幼児教育無償化実施により今後園児減少が大変懸念される。
- ・ 今こそ地域とつながりの深い公立幼稚園は，小中学校との連携協力を密にして取組を進めていく。
- ・ 「待賢カーニバル」については，地域とともにPTAやOBも協力支援していきたい。

最終評価

中間評価時に設定した各種指標結果

- ・ 交流の回数や地域の方々の声
- ・ アンケート項目 「94 %」

自己評価

分析 (成果と課題)，重点目標の達成状況，次年度の課題

- ・ 園行事として1月に行った餅つきでは，学校運営協議会やおやじの会，PTA等大勢の協力があり，幼稚園が大切にしている季節の行事ごとを園児に体験を通して味わわせることができた。
- ・ 園行事であるひな祭りの集いでは，毎年地域のお年寄りとの交流も行ってきたが，今年度は急遽臨時休業となり実施することができなかった。

分析を踏まえた取組の改善

- ・ PTAの関りが深い地域行事への参加については，行事の進め方や協力の在り方などを十分検討した上で無理なく行えるように改善を図っていく。

学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの健やかな成長を見届けていく上でも、地域とのつながりの深い公立幼稚園、小中学校との連携は今後も大切にして取組を進めてもらいたい。 ・来年度以降の「待賢カーニバル」については、PTAだけでなく園にも負担のない方法を考えていきたい。
---------	---

（５）業務改善・教職員の働き方改革について

重点目標	教職員一人一人が勤務時間を意識し、子どもと向き合う時間を十分に確保する。
具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園行事の見直しと精選 ・会議の精選と会議時間の効率化 ・ノー残業デー（毎水曜日）と１８時までの電話対応時間の徹底 ・校務支援員活用による検証
（取組結果を検証する）各種指標	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の勤務時間 ・年休取得率

中間評価

各種指標結果	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の時間外勤務時間「平均４３．５時間」 ・年休取得率「３６％（５日以上）」
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度見直した園行事や会議の効率化などは、随時見直ししながら実行してきた。 ・毎水曜日はノー残業デーと共に職員朝礼をしない日に設定し、勤務時間厳守につなげている。 ・２年保育の小規模園で教職員の異動があると、一部教職員の仕事量が増加する傾向になりやすい。 ・昨年度に続く校務支援員配置は、教職員の負担感軽減と時間外勤務時間縮減につながっている。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全ての取組を前年度踏襲とせず、その都度確実に見直し実行する。 ・カレーパーティや運動会等の園行事は、全教職員がチームとなて行う。 ・勤務時間外の時間を縮減するために、業務終了時刻を水曜日を除き１９時とする。 <p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の勤務時間 ・５日以上の年休取得率
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度、幼稚園が電話対応時間を１８時までとしたことが、働き方改革の一環として地域にも広く浸透してきている。今年度、小学校が１９時までの電話対応時間としたことがよく理解できた。 ・保育充実のために働き方改革を進めるうえでは、来年度以降も校務支援員が配置されることを願う。

最終評価

	<div>中間評価時に設定した各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の時間外勤務時間「月平均２８時間」 ・年休取得率「１００％（５日以上）」
自己評価	<div>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</div> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は新採教員の異動があったため、担任兼務の教頭への仕事量が増え、働き方改革を十分に推し進めることができなかった。 ・今年度より毎水曜日は職員朝礼を行わない日に設定し、特に担任の負担感軽減につなげた。 ・校務支援員の継続配置は、保育充実に向かう教職員の負担感軽減や時間外勤務時間縮減に大いに繋がっており、次年度以降も継続した配置が必要である。 <div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> ・保育充実のために目の前にいる子どもをしっかりと見据え、行事等の取組は見直しながら進める。 ・事前の職員会で確認し合った園行事は。全教職員でチームとなっていく。 ・勤務時間外の時間を縮減するために、業務終了時刻は原則水曜日を除き１８時３０分とする。
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園の働き方改革は、毎日１８時までの預かり保育があるため難しいように思うが、保護者理解のもと進めていくことが大切である。 ・本園は２年保育の小規模園で教職員数も少ないため、保育充実のための働き方改革を進めていくうえでは、来年度以降も校務支援員が配置されることを願う。